共生の大切さを学んだカナダ研修の今後の発展を祈念して

～It’s more important to make a move than just now～

輪之内町立輪之内中学校　派遣団団長

今年度「輪之内町カナダ派遣研修事業」が２１回目となりました。先輩方が積み重ねてこられた歴史の重みと大きな責任を感じながら２年生生徒６名、引率教員３名、合計９名でカナダ研修に行ってまいりました。多くの方々の御支援のもと、カナダ・アルバータ州・ヒントン町との８日間にわたる交流研修を無事終えることができましたことを第一に報告いたします。

カナダ研修で学んだことや感じたことは、国籍や人種など全く関係なく共に尊重し合い、支えながら暮らしており、日々人権教育を実践していることや雄大な自然の中で野生動物の生活環境を大切にしながら共生していることです。では、人間関係における共生と野生動物との共生の視点で報告させていただきます。

１点目の人間関係における共生とは、国籍や人種など全く関係なく共に尊重し合い、支えながら暮らしている姿です。具体的には、カナダの公用語は英語とフランス語です。フランス語圏から移住した人々は代々フランス語を母国語としながら、英語を使用してコミュニケーションをとっていました。そのため、フランス語のイントネーションに近い英語での会話や、逆に英語のイントネーションに近いフランス語での会話など様々な姿に出会いました。相手を尊重する精神が根付くヒントン町に、日本語を母国語とする生徒６名を温かく迎え入れていただきました。生徒の英会話は語彙力・文法力ともに未熟ですが、身振り・手振りを使い、知っている単語を駆使しながらカナダの人々とのコミュニケーションを一生懸命に図りました。その姿は、ホストファミリーの方々から好評をいただき、人と人を結び付ける人間力を感じました。

また、入国審査や飛行機搭乗時に行われる持ち物検査では、英語で数多く質問されましたが、臆することなく会話する姿から、輪之内町が重視している英語教育（グローバル教育）の成果が感じられました。ヒントン町役場を訪れた際、積極的に町長さんや秘書の方々の説明を聞くと同時に数多く質問する姿がありました。まさに、英語を介してカナダを学ぼうとする姿が多く見られ、生徒たちは研修の意義を十分理解していると感じました。

最も印象的な見学場所は、昨年度オープンしたヒントン駅博物館です。約１００年前の駅舎を改造して、カナダインディアンの歴史や移住者との共生の歴史を学びました。これは、現在輪之内学校が取り組んでいる人権教育の大きな礎となりました。さらに嬉しかったことは、博物館の入口に「ヒントン駅博物館へようこそ」と日本語の看板が掲げられていたこです。

２点目は、自然を愛し、野生動物との共生を大切にしている姿です。車で移動していると道路脇にヘラ鹿・山羊・熊などが姿を見せます。カナダの人々にとって、野生動物の出現は自然なことであり、追い払ったり駆除したりすることはありません。町に降りてきた熊が、ゴミボックスから餌になる物を奪うことができないようにゴミボックスの蓋に細工をしています。野生動物が、町中では生きていけないことを自ら悟り、人間が住んでいる区域から離れて生きていく方法を選択させていました。また、自然環境や野生の動物たちに影響を与えないエコな暮らしを心掛けていました。雄大な自然の中で野生動物の生活環境を大切にしながら人間と共生する貴重な体験をすることができました。

研修に参加した生徒６名は、今という時に留まることなく、新たなうねりを生み出し様々な場面で積極的に挑戦を続け、輪之内町の宝として活躍してくれると確信しております。

最後になりますが、今回の交流に対し入念な準備やお心遣い、事前の英会話研修、出発式、帰国式における送迎等でたいへんお世話になりました輪之内町並びに輪之内町教育委員会の皆様方に、心より御礼申し上げます。